

# 里親制度・養子縁組制度について

妊孕性温存と同時に  
知ってほしい家族の形があります  
ご家族の方も一緒に考えてください

令和4年度厚生労働科学研究補助金（がん対策推進総合研究事業）  
小児・AYA世代がん患者に対する生殖機能温存に関わる心理支援体制の均てん化と安全な  
長期検体保管体制の確立を施行した研究—患者本位のがん医療の実現を目指して（20EA1004）

このリーフレットでは血縁にかかわらず  
家族をつくる里親制度・養子縁組制度を  
紹介しています。



## 全国の児童相談所・養子縁組あっせん許可事業者の連絡先



全国児童相談所一覧

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo\\_kosodate/zisouichiran.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo_kosodate/zisouichiran.html)



養子縁組あっせん許可事業者一覧

<https://www.mhlw.go.jp/content/11900000/000820987.pdf>

## 里親制度・養子縁組制度の内容・手続き

生みの親や親族のもとで育つことが  
できない子どもたちの数 **約 42,000人**  
(2022年3月時点)

	里親	養子縁組	
		特別養子縁組	普通養子縁組
法的な親子関係	〈生みの親〉 〈里親（育ての親）〉 生みの親が親であり、里親と法的親子関係はない 	〈生みの親〉 〈育ての親〉 生みの親との法的親子関係は終了 	〈生みの親〉 〈育ての親〉 生みの親・育ての親ともに法的親子関係が存在 
子どもの年齢	原則として18歳まで (必要な場合は20歳まで)	原則として15歳未満	年齢制限なし(養親より年上は認められない)
関係の解消	途中で生みの親の元に戻る か自立する 	原則離縁はできず —生親子である 	離縁が可能である 
養育に必要な費用の支給	里親手当： 一人当たり <b>9万円/月</b> (2022年現在) + <b>生活費</b> など(※養育里親の場合)	<b>0円</b>	

養親希望者が養子縁組民間あっせん機関に対して支払った手数料相当額の全部又は一部を補助している自治体があります。詳しくは、お住まいの地域の児童相談所にご確認ください。  
厚労科研鈴木班調べ（日本財団子どもたちに家庭をプロジェクト <https://www.nippon-foundation.or.jp/what/projects/nf-kodomokatei/infographics> 一部改変）  
2017年4月に施行された改正児童福祉法で、家庭と同様の養育環境の中で、継続的に子どもが養育されるよう、養子縁組や里親、ファミリーホームへの委託が原則となりました。

里親は都道府県知事による認定を受け、児童相談所から子どもの委託を受ける / 里親は児童相談所に申し込み、研修を受け、都道府県知事の認定を受けること / 養子縁組は児童相談所か民間養子あっせん機関に申し込む / 養子縁組は里親として子どもの委託を受けるか民間から子どもの委託を受けて、裁判所に養子縁組の申し立てをする（普通養子縁組は家庭裁判所の許可） / 普通養子縁組は単身でも可能で、未成年は家庭裁判所の許可が必要

## 里親そして養子縁組へ（里親として女の子を迎えて養子縁組した男性）

私たち夫婦が里親となり、養子縁組をするまでには十数年という歳月を要しました。それはまた子どもを望みながらも恵まれない辛さ、不全感に苛まされる日々でもありました。生殖には二つあります。生物学的生殖と社会的生殖です。私たちは後者を選びました。児童相談所に里親申請をしたのは私が42歳、妻が43歳のとき、不安と望みを抱いてのことでした。

しばらくして6歳の女の子と暮らすことになりました。さっちゃんという小さな女の子。里親制度、特別養子縁組制度は子どものための制度と理解しながらも里親に決まったときは妻と二人喜んだのを今でも鮮明に覚えています。わずから歳で大きな喪失と悲しみを抱えたさっちゃんですが、一緒にご飯を食べたり、お風呂に入ったり、テレビを観たりごく当たり前のことに楽しさを感じています。時には喧嘩をし、思い通りにならないことに苛立ちを覚えることもありますが、私たち夫婦はさっちゃんに出会えて本当に良かったと思っています。今では「パパ運転に気を付けて、無駄遣いしちゃダメだよ」と言われている私です。



## 夢はファミリーホームで大家族 （兄から勧められて里親になった夫婦）

元々排卵障害があった私は結婚と同時に妊活を開始し、体外受精にも何度か挑戦しました。しかし、そのうちに子宮内膜に病気が見つかったため、子宮の摘出を考えなくてはなくなりました。どうしようかと悩んでいる時、保育園を経営している兄から「自分の子が欲しい気持ちは凄くわかるけど、里親になるって手もあるよ」と里親制度のチラシをもらったのです。「里親になるという選択肢」が夫とともに私の胸の中にストンと入り、「里親になりたい!」という気持ちで2人とも光が差したような気分になりました。



術後は里親になると父に伝えると、里親登録も何も決まっていなのに子ども用品をプレゼントしてくれました。私たち夫婦と同じように家族も楽しみにしてくれていることがとても嬉しいと思いました。赤ちゃんが来てからは、何をしても子ども優先で「子どもがいる生活って大変だけどこんなに幸せなんだね〜」と夫とよく話しています。将来はファミリーホームで多くの里子さん達と一緒に過ごせたらいいなと考えています。